

【防災メモ】

～北海道の活断層について～

●活断層とは

岩盤にひずみが限界まで蓄積すると、弱面（断層面）を境として急激にずれ動きます。これが地震です。過去から繰り返し地震を起こし、将来的にも地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と呼びます。

現在、日本の周辺には約 2,000 もの活断層が見つっていますが、それ以外にも多数の活断層が存在していると言われています。

●北海道の活断層

北海道の中軸部には、宗谷丘陵から日高山脈にかけて南北に丘陵や山地が存在し、これら丘陵や山地と周辺にある盆地や平野との境目に沿って活断層が分布しています（図1）。

政府の地震調査研究推進本部では、規模の大きな地震が発生する可能性のある全国約100の主要な活断層について、今後発生する地震の規模や発生確率を評価しています。北海道内に主要な活断層は9あり、そのうち、「黒松内低地断層帯」と「サロベツ断層帯」は、今後の地震発生確率が高く評価されています。



図1 北海道の主要な活断層（地震調査研究推進本部による）
赤の活断層は発生確率の高いことを示す

●地震への備え

活断層による地震としては平成28年（2016年）熊本地震が記憶に新しいですが、北海道では近年活断層による地震は発生していません。しかし、平成30年北海道胆振東部地震など、活断層との関連が明らかでない場所でも大きな被害をもたらす地震は発生する可能性があります。

平素から、建物の耐震補強、家具の固定、水や食料の備蓄、避難場所の確認など、地震全般への備えを進めるほか、住居内であるべくものを置かない安全スペースを作り、強い揺れが発生した時には安全スペースへ退避し姿勢を低くして身の安全を図るなど、突然の揺れにも対応できるよう家族で相談しながら備えましょう。